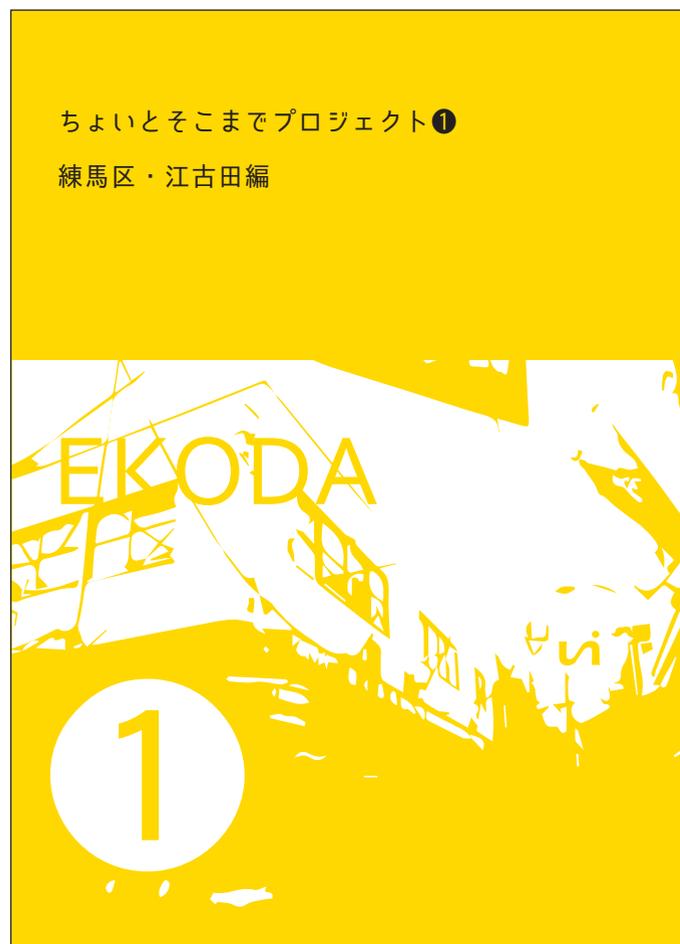


ちよいとそこまでプロジェクト①記録冊子を刊行します。



地域住民への取材を通して収集する「町の歴史や記憶」をもとに演劇作品を作り町の中で上演すると同時に、聞き集めた町の一つの町の記録として残す、演劇によるまちづくりプロジェクト。その第一弾「練馬区・江古田編」の記録冊子が遂に完成しました。

ちよいとそこまでプロジェクト① 練馬区・江古田編



2015年3月22日より
公式HP内特設ページにて
ご購入いただけます。
また、江古田駅周辺の小売店など
でも順次販売予定。
詳細は公式HPをご覧ください。

《収録内容》

- 江古田駅周辺マップ
- 取材記録一覧
魚介類の大森屋、入船屋煎豆店…ほか全12件掲載。
- 演劇活性化団体uni紹介
- 「ナイス・エイジ」ができるまで 阿部健一
《上演台本》「ナイス・エイジ」
《付録》江古田年表

定価 1,000円

※インターネットでのご注文の際、一部手数料が発生する場合がございます。予めご了承ください。

問い合わせ

演劇活性化団体 uni 
〒176-0004 東京都練馬区小竹町 1-21-14

Mail: engeki.uni@gmail.com
HP: <http://uni-theatre.jimdo.com/>
Twitter: @uni_theatre

演劇活性化団体uni(うに)ー主宰・演出の阿部 健一を中心に2010年に発足し、活動している演劇団体。現実と虚構を行き来するような作品製作が特徴。劇場に限らず、様々な空間や手法での公演を実施している。2013年より演劇によるまちづくり活動にも積極的に取り組み、同年に練馬区の練馬まちづくりセンターよりまちづくり団体として認可を受ける。現在、江古田を拠点に活動中。

取材記録

Sample

1



ここに昭和二十三年ごろ来たのかな。小学校あがる二年くらい前。昭和二十五年に小学校一年だから。

大森からいらっしやったから大森屋なんですか？

そうそう。昔大森でやってたからうちのおふくろの実家が。今でいうと平和島だ。魚屋やってたの。それで親父が戦争から帰ってきて、こっちに店持つて。

僕らはどじょう食べたことない。
今の人はみんな気持ち悪いって。うなぎになっちゃった。昭和三十九年ころからうなぎが売れて、面白いくらい。毎日二十キロくらい割ってたんだよ。それからだんだんうなぎの時代になってった。肉だって、昔は牛肉なんて食ってる人いなかった。俺なんか子どものとき、肉なんか食ったことなかった。豚くらいだよ。すき焼きとかステーキとか、そんなの知らないよ。魚だったから。昔の人は四つ足って嫌がったんだよ。ほとんど覚えてないよ。大人になっちゃっただよ。

今の人はどじょう調理できないですよ。
できないできない。あんな生きたのおみおつけに入れたり、頭はねたりできないよ。丸で食うと一番うまいんだけど。大変だよ、あんな小さいの割くの。おふくろが割ってたの。

どじょうって食べるんですか？

柳川だよ。どじょうさつと煮て、甘草いつゆでこぼろ煮がいて、どじょう乗っけて。卵でとじて。うまいよ。ビールのつまみなんか最高。

あー。

それがもうだめ。時代とともにな。食い物も廃れとか何かあるよな。今はお魚屋さんより肉屋の売れてるんだよ。阪急デパート行ってたときは魚屋が、一番売ってたんだよ。東京で二番目のデパートだったの、魚売り場で。一番は日比谷の東急デパート。若い人二十人くらい働いてた。忙しいから親父が、小僧でもこんなでつかいマダロおろせて。百キロくらいの。骨にこんな身がついてもいい、構わねえって。それで覚えた。今も百キロくらいのマダロも、出刃包丁一本でさばけるよ。

へー、ぜひ拝見したい。

そのくらい売れたんだよ。魚。今は肉屋さんに敵わない。魚は骨があるからって、親がむしってやらなきゃいけないし。肉はハンバーグとか、ぱつと焼いたら食べられるから。

オリンピックのころはすく賑わってたとお聞きしましたが、どういってお客さんがどこから来てたんですか？

どうしてこっちに來られたんですか？

やっぱりほら、親父戦争から帰ってきて、昔うちのおふくろがすごい立派な魚屋やってたんだけど、戦争で爆弾落とされてみんな焼けちゃって、ダメになっちゃって。それで親父が王子から、うちのおふくろと一緒に、昔こころへん昭和七年前に牛乳配達してたから、親父。その関係で江古田に場所があるなって、そいで来たわけ。

じゃあそのときから、このあたりはお店があつて、商店街になっていたの？
いや、ほとんどないね。全然ない。ここんちで一番古いのは大津屋さんとかなのかなあ。うちも二十三年だから古いほうだね。でもほら、ここはいっぱい代替わりしてるから。出たり入ったり。うちなんかよく持った方だよ。昭和二十三年ころからずーっと。今までやってたから。ずいぶん代替わりしたんだあつちこつち。ここはみんな二代目だよ。あとはみんな初代は亡くなつちやっただよ。

初代って言うと、戦前からここでお店をやってたような方々。

そうそう。だいたい土台をみんな初代の人築いたから。昭和三十年頃からほとんどん景気がね。池田さんじゃないけどね、所得倍増たなんて。それでオリンピックはほら、上り調子で。だんだんもう。昭和四十年のオイルショック？あれからつまづきはじめた。

お客さんはいつからお店のお手伝いをされてたんですか？

俺は中卒からすぐ小僧に行つて。大井町の阪急デパート。そこは魚屋がすく売れて。二トシ車毎日山積みだもん。お客が二十人三十人もたむろしちゃって。押すな押すな。それで親父が見て、おれもうちの親戚、阪急デパートに小僧に行つてこいつで。五年くらい。それでうちが忙しいから帰つてこいつで。

じゃあ二十くらいからここで。

そう。ちょうどオリンピックのころ、昭和三十九年に帰ってきた。それからうなぎが売れて。昔はうなぎよりどじょうが売れた。それがだんだんどじょうが売れなくなつて、うなぎに変わった。昔うちはどじょうがすごかつたんだ。裂きどじょうと丸どじょう。駒形屋のどじょうとか。昔はどじょうが売れたんだ。「駒形屋のどじょうで一杯」とか。

地下鉄もなかったし、みんな奥地から歩いて、みんな江古田駅乗り降りしてたから。昔こしかなかつたから。七、八万人降りてたんだから。今は二万人とか、一万五千人に減つちやっただけ。こしかなかつたから。だから否が応でも。帰る。買って帰る。それで十八時から安売りして。デパートもまだ食品に力を入れてなかつたし。立地条件もよかつた、全てがよかつたよ。今はいろんなのがあるけど、肉屋・魚屋・八百屋の絶対的な三品が揃つた。ここ以外こんな揃つてるところはなかつたんだ。だからお客さんも来るわけよ。八百屋なんか四、五軒あつてみんな商売になつてたんだよ。初代の人天国だったよ。何でも持つてくれば売れちやっただよ。今は持つてきたって売れないから持つてこない。

全 12 件の取材記録を収録。

企画のはじまりから、

「ナイス・エイジ」上演台本まで
まるっとプロジェクトの道のりを

全 82 ページに渡り収録。

※こちらはイメージです。販売されるものとは一部異なる加工が施されています。